



団地内のスーパー撤退にへこたれず  
移動販売車「ヒロデンジャー」を導入！

団地内の大型スーパーが突然撤退。歩いていける範囲にスーパーがなくなったことで、多くの高齢者が買い物に困っていた。

この状況を何とかしようと、町内会が結集して、移動販売車「ヒロデンジャー」を誘致。住民に買い物とコミュニティの場を提供している。

- 内 容 移動販売車（大型バス改造）
  - ・野菜、生鮮食品、冷凍食品、日用品等800品目を販売
- 実施日 週3日（火、木、土）11時～16時（火は14時）
- 場 所 杉並台青空市場（佐伯区湯来町杉並台26-11）
- 利用者 1日約150人
- 開始時期 平成25年8月
- 実施主体 杉並台連合町内会



## 取組のステップ



### スーパーが突然撤退

平成24年11月、前日まで開店していた団地内のスーパーが突然撤退した。

75歳以上の高齢者が約270人と高齢化が進んでいる団地では、スーパーがなくなったことで買い物に困る人が多数いた。



### 団地内の町内会が結集して作戦会議

スーパーが撤退した6日後、団地内の8町内会長を緊急招集した。その後も何度も集まり対応を協議した。何とかスーパーを誘致しようと、市内にチェーン店を持つ店舗に出店を依頼したが何れも断られた。その数は10社に上る。

その間にも、少しでも高齢者の負担を少なくしたいと、団地内にある個人商店や巡回販売、宅配の情報を記載したチラシを作成して全戸に配布した。

こうした中、一人の町内会長が、広電ストアが大型バスを改造した移動販売車を稼働する団地を探しているとの情報をキャッチした。これを契機に、移動販売車誘致へと動き出し、町内会長を中心に広電ストアと協議を重ねた。

### 平成25年8月3日 移動販売車「ヒロデンジャー」が団地に

遂に移動販売車「ヒロデンジャー」が団地にやってきた。当初は、毎週火・木・土の11時から16時まで、元スーパーの駐車場を会場にした。

雨や雪の日に外で待つのが大変ということもあり、その後、団地の中心部にある屋根付きの「杉並台青空市場」に移動した。



---

## 工夫していること



### 導入時に住民へアンケート

ヒロデンジャーの導入前に、住民を対象にアンケート調査を行った。利用するかどう  
か、利用する場合の曜日、必要な商品などについて聞き、これが現在も活かしている。

### 買い物をしながら交流を

買い物に訪れた人が、ちょっと話をしたり休憩できる  
よう、会場内に長椅子を置いて、交流の場を作っ  
ている。



### チラシで情報提供

多くの人に利用してもらえるよう、移動販売の実施日や販売品目等を記載したチラ  
シを配布している。

### 利用者のニーズに柔軟に対応

利用時間や販売品目など住民の希望に沿うよう、町内会と広電ストアは随時、協議  
を行っている。

利用者から必要な商品を読み、次回の販売日に揃えるようにしている。また、火曜  
日は魚、木曜日は肉、土曜日は野菜とメリハリをつけている。

---

## エピソード



- 広電ストアのスタッフが、毎回、買い物に訪れた人に声をかけ、温もりのある雰  
囲気になっている。また、歩くのが難しい人は、広電ストアが「ヒロデンジャーゼロ  
号」で、荷物と一緒に自宅まで送ることもある。
- 「杉並台青空市場」（市の施設）に会場を移す際、市の担当課に相談し、対応を一  
緒に考えてもらった。
- 元スーパーの駐車場を会場にしていた頃は、雪が降る度に数人で雪かきをしたこと  
もある。



## ■ 課題・今後の展開 ■

- ・ 利用者をもっと増やす。
- ・ 会場の近くに洋式トイレを設ける。



## みんなの声



### 〈住民〉

- ・ 買い物がしやすくなった。本当に助かっている。
- ・ 毎回、買い物に来る。ここで、知りあった人と話するのが楽しみだ。
- ・ 担当スタッフが丁寧に対応してくれるのが嬉しい。

### 〈主催者〉

- ・ 皆さんの笑顔を見る度、皆でがんばって誘致して良かったと思う。
- ・ 事業者が常に買い物弱者のことを考えて対応してくれる。

また、とんどや盆踊りなど、団地内のイベントで使用する食材等の調達を引き受けてくれるのもいい。

